

平成27年3月5日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



どんなリンゴか、なぜわかる？

私には、一見するとおいしそうにみえるが、でもよく見ると、バリツとした歯ごたえのある時期を少し外した、ほんのすこし表面がふわつとした林檎に思える。こんなことを北海道出身の私が書くと、林檎のプロの青森県の皆様から「いやあそうじゃないだろう」というご意見を多数頂戴しそうだが、それはぜひ美術館においていただいて直接私にお話しして頂くこととして。要は、紙にただ描いただけの林檎から、私たちはなぜそこまで想像、あるいは幻想を抱くことができるのか、ということなのだ。逆に言うと、作家とは、そうした「どうみえるのか」を意図して作品にちりばめ、表現をしていく人ともできる。見るものに様々な林檎にまつわる幻想を抱かせてしまう鷹山宇一のデッサンは、彼が孤高の幻想画家としての地位を確固たるものとしたゆえんが詰まっている。

現在スペイン館にて開催中のシリーズ常設展「再考・鷹山宇一」では、幻想画家としての油彩代表作と、同時期のデッサンが一度に鑑賞できる。デッサンに現れる鷹山宇一の類い希な観察眼、描写力が、薄明の中に浮かび上がる幻想世界にどう生かされているのか。あるいは、油彩作品の中の企みがつまったデッサン的な「部分」が集合して、「全体」がどう成り立っているのか。一つの作品を、「一つ」として見るだけではなく、集合体としてみてみると、また違った鑑賞の深まりが得られるかもしれない。

(学芸員 清水輝大)

鷹山宇一記念美術館ワークショップ(芸術文化推進事業)アートひみつ基地の紹介

”まちかど美術館5周年”

写真で見る子どもたちの「ありのままの表現」～5年間のあゆみ～

平成26年度で5周年を迎えた「まちかど美術館」&2年目となる七戸秋祭りの風物詩「灯籠・NIGHT」の活動を鷹山宇一記念美術館のご協力を頂き紹介致します。

「まちかど美術館」は、七戸町内の幼稚園・保育園に入園している5歳児を対象に「七戸町」をテーマに表現、七戸中央商店街協力店舗を会場に作品を展示・紹介する事業で、第1回目は、平成22年12月4日に開業した「七戸十和田駅」を記念して「新幹線」をテーマに平成22年5月に開催、平成26年度で5周年を迎えました。

★スタッフの一言

参加された園児を始めとするご家族の皆様方、開催にあたってご協力頂いた関係者の皆様に感謝申し上げます。有り難う御座いました。これからも子供達がありのままにとらえ表現する「子どもたち十商店街十美術



館」とのコラボレーション「まちかど美術館」の応援を宜しくお願い致します。

第1回	平成22年 5月15日～17日	写真	2段目	2枚	
第2回	平成23年11月 5日～ 6日	写真	3段目	上段	右
第3回	平成24年 9月 7日～ 9日	写真	3段目	下段	右
第4回	平成25年10月12日～14日	写真	3段目	下段	左
第5回	平成26年10月25日～26日	写真	3段目	上段	左・中 2枚

灯籠NIGHT

七戸町の中心市街地を流れる七戸川を活用した「灯籠NIGHT」は、鷹山宇一記念美術館の野外イベントで、第一回目は、平成25年9月5～7日(秋祭り期間)に開催されています。



★スタッフの一言

毎年、小学生から大人までご参加、ご協力頂き有り難う御座いました。今年も、来年も再来年も継続し、いつの日か七戸秋祭りの風物詩にまで育つて欲しいと願い一生懸命取り組んでいます。今後とも皆様のご参加、ご協力をお願い致します。

写真提供：鷹山宇一記念美術館

(友の会会報担当：照井壽一)

(写真：25年度右上下・26年度左)





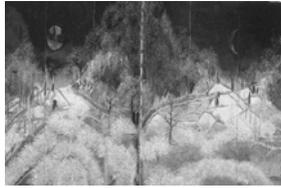
箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵
「平松礼二展」
日本の美を求めて

会期 1994年4月11日(日) ~ 4月30日(火)

十九世紀後半のヨーロッパで多くの画家たちを魅了した「ジャポニスム」(日本趣味)を独自の視線から探求し昇華した平松礼二に対する美術評価が国際的に高まっている今日、当美術館で彼の絵画展を開催できますことは、誠に時宜を得たものと考えます。
本展に展示される作品は、次の三つに大別されます。

一、「路」シリーズ

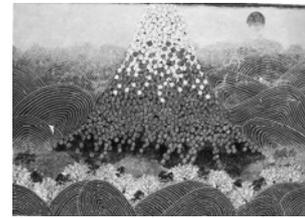
彼は、山や川に囲まれた自然と庶民的で温もりのある暮らしと共存するのどかな「古里」の原風景を追い求め旅をして描いた「心の路」の作品二十六点です。



いつかきた路

二、「日本の美を求めて」

印象派モネの大作「睡蓮」には、日本画の「飾り」や「自在性」、「遊び心」が使われていることと鮮烈な衝撃を受けた平松礼二が日本の美の原点である「琳派」の伝統的な意匠性と装飾性を継承しながら風景を舞台に生命の営みを表現した作品二十点です。

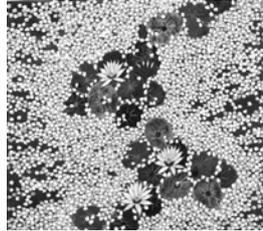


日本の新しい朝の光

(東日本大震災への鎮魂の思い)

三、「文藝春秋」の表紙絵

大正十二年に創刊された「文藝春秋」の表紙絵は、安井曾太郎や杉山寧、高山辰雄ら日本を代表する画家たちが描いてきました。その後を受け継いだ平松礼二が十一年間にわたり日本列島を旅し、日本の美の素晴らしさを再確認しながら描いた作品十二点です。



睡蓮さくら図

ご来館の皆様が、生まれ育った古里に思いを馳せ、古里の美しさを再考し、古里を愛でる機会となれば望外の幸せです。

県南コレクション展第2期
特集一 伊藤二子

4月12日まで!

県南地方の生活の中に息づく「美」をシリーズで紹介していく「県南コレクション展」。各回、県南ゆかりの作家や、県南にすむ美術作品の収集家のコレクションを中心に、当館所蔵品と共に展示しています。第2回目の今回は、県南の作家として伊藤二子さんを、県南のコレクターとして2名の収集家の方の所有作品を特集しています。

伊藤二子さんってご存じ?



伊藤二子(いとう・つぎこ)さんは、大正15年、八戸市に生まれ、長年八戸出暮らしてきた非具象造形家です。先日の開催記念セミナーの2月2日は、二子さんの9才のお誕生日でした。戦後、八戸市立小中野

小学校にて教員を8年間つとめていらっしやいました。その教員時代に、書家であり造形家の宇山博明(うやま・ひろあき)さんとの出会いがあり、その交流から絵を描き始めました。それ以降は画壇に所属することなく、一貫してキャンバスにペインティングナイフ(なんと刀鍛冶による特注、特大ナイフ!)を用いた独自のスタイルで画業を続けてきました。平成23年には青森県立美術館にて個展「伊藤二子と八戸」を開催、現在も、八戸を中心に毎年新作を発表されています。



伊藤二子さんと会える!
トークイベント・ワークショップ

二子さんと気軽におしゃべりしながら作品を鑑賞する「おしゃべりた いむ」を3月21日(土)、4月11日(土)に、二子さんの制作を体験するワークショップを4月4日(土曜、要予約、素材費として一人1500円)にそれぞれ開催。お問合せ、お申込みは美術館(0176・62・5858、学芸清水)まで!

★わーくしよっぷ のできごと★

これまでのワークシヨップの活動を
報告いたします。

☆お正月飾り 12月13日(土) 天間東小学校学童保育クラブ

12月13日(土)天間東小学校で出張ワークシヨップ「お正月飾り」が開催されました。親子参加のワークシヨップ。小学生と保護者の両名にはそれぞれ違うお正月飾りを作って頂きました。



小学生の皆様にはどんな小さな幸福もかき集める意味を持つ熊手を。何も飾りが無い熊手をお正月飾りや、フェルトシールなどで派手に、賑やかに彩って頂きました。作り方は単純ながらも、どんなパーツを使うか、どんな仕上がりにするかで参加者それぞれの熊手となっておりました。

保護者の皆様にはしめ縄を作って頂きました。こちらも何も飾りのないしめ縄を造花や水引、お正月飾り等で飾ります。熊手より難易度が高く、見栄えもするため皆さん真剣なご様子。造花や水引等は様々にアレンジしている姿を見かけました。ものづくりが苦手という方の中にはいらしていましたが、しめ縄は毎年見るお正月飾りであるためイメージしやすいのか、四苦八苦しながらも世界で一つだけのしめ縄を作っていました。

皆さん、作ったお正月飾りは家に飾るそうで、満足している笑顔を拝見することができました。

☆キューブキャンドルをつくらう 12月14日(日)

美術館でワークシヨップ「キューブづくり」が行われました。30名を越えるワークシヨップとなり、その個性豊かなキューブが生まれました。



キューブはキューブ状に色づけ加工した蠟を紙コップの中に敷き詰め、固定します。その上に飾りの蠟を固定して出来上がりの内容です。お一人2つ作れるのですが、1つめは勝手が分からなかった小さな参加者も2つ目となるとコツを覚え、ダイナミックなキューブを作り上げていました。

☆デコ・スイーツ 〜おいしそうなグッズをつくらう〜 平成27年2月15日(日)

紙粘土で出来たクッキー生地や白いチョコプレート、絞っていないホイップクリームを参加者が持ってきた、ピンや写真立てにデコレーションしていく内容です。クッキー



生地に焼き目をつける。チョコプレートに色づけするなど、未完成のスイーツを完成させてデコレーションしていきます。アイスクリームもその場で作れるため、参加者は自分の好きなスイーツをイメージしながら本物そっくり仕上げていきます。

お菓子作りが趣味という参加者もあり、プロ顔負けのスイーツがあちこちに！デコレーションされて少し重くなった作品を大切にお持ち帰りしていました。

平成26年度 ワークシヨップ

- ▼6月29日
バラの和紙(ローズカントリー)でバラを使った和紙づくり)
- ▼7月5日・8月20日
ダンボールハウスづくり
- ▼7月10日
せんべいストラップ(彩香園様対象、紙粘土を使用した南部せんべいストラップづくり)
- ▼9月5日・9月7日
灯籠づくり
- ▼9月13日
食品サンプル(溶かした蠟を使用した食品サンプルづくり)
- ▼10月18日・12月14日
キューブキャンドルづくり
- ▼10月25日・26日
まちかど美術館
- ▼12月13日
お正月飾り(熊手としめ縄づくり)
- ▼平成27年2月15日
スイーツ・デコ



沢山のご参加誠に有り難うございました。またのごお待ちしております。

近隣美術館の News & Report

青森県立美術館

青森EARTH2014

第一部 追悼・豊島弘尚

彼方からの凝視

会期 3/22(日)まで！

青森の大地に根ざした
アートを求めて

2014年 12月2日(火) - 2015年 3月22日(日)

第一部 追悼・豊島弘尚
彼方からの凝視

第二部 純目の詩、石ノ柵

青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

4月11日から始まる「成田亨 美術／特撮／怪獣」が美術館連絡協議会のカタログ論文賞を受賞し、さらに同展に期待が高まっているところではあります。今回はあえてその前に開かれている常設＋特別展「青森EARTH2014」を取り上げ

タカビ学芸員の独断と偏見

おすすめ展の ごあんない

ます。本展で追悼展として特集されている豊島弘尚は、横浜町生まれ八戸育ち。現代抽象作家として国内外で活躍しました。北国の光を題材とし、自身が感じる自然、または生と死を靈感源とした作品に、観るものは引き込まれずにはいられません。

私は特に、東日本大震災や、最愛の親族の死に直面した晩年の作品には、痛み、怒りが、頭を通り越して、直接腹の底に突き刺さるような感覚を覚えます。同展会期は本展にも少し。新しく収蔵した作品を含め、県立美術館所蔵の豊島作品が全て展覧できる機会は今なかなかありません。この機会をお見逃しなく！

(ちなみに、展覧会名にある地球という意味の単語「EARTH」ですが、真ん中に「ART」が入っているの、気づきましたか？これが展覧会名の由来のひとつなので、いくら縦書きでも「青森アース」なんてカタカナで書いたらダメですよ。)

宮城県美術館

針生一郎と戦後美術

わが愛憎の画家たち

会期 3/22(日)まで！

さて、こちらも会期が本展にあと少し。観ておかなくては！な展覧会は、いつ行くの？今でしょ！のように、えいやっ！とすぐにいかないと、あれっ？終わっちゃった？ということになりかねませんね。



針生一郎は仙台出身の大批評家。中原佑介や東野芳明とともに、美術批評の御三家と言われました。私も美大生時代には、ほぼ常に鞆には著書が入っていました。作品と作家を通して社会を痛烈、痛快に批判するあたり、とても好きでした。

本展では、そんな「社会と人間」という一貫したテーマに沿って針生が評してきた作家たちの同時代の作品を、針生の批評と共に一挙に展示しています。

ところで、少しだけ話はそれますが、美術史は常に批判と革新の意欲が地下でふつつつと煮えたぎり、爆

発的な衝動によって次の歴史を作ってきた。鷹山守一も活躍した二科会も、そんな衝動から発生してきますよ。このことは逆に、教科書や年表一覧にのっている美術史の表舞台だけみても、「なぜそうなったのか」の「なぜ」の部分が見えにくい、と言えるのかもしれない。私はすでにこの展示をみてきましたが、そんな「次代の美術史」を構築する直前に、出展作家達が、実はみんな何かをたくらんでいるような、アンダーグラウンドの二オイがぶんぶんする、みていてワクワクがとまらない展示でした。

ちなみに最終日に講演会が行われる沢山遼さんは、私の美大時代の先生。とはいえ、私とそんなに年ばかりわらないのですが、第14回芸術評論で第一席に輝いたすごい人です。現代の日本美術界を牽引する若き批評家が、針生をどう講ずるのか。こちらでもワクワクです。私は行きます。

視察 保守 館内 活動 ランティア のお願いとお誘い

特別展開催中の当館内で、作品と来館のお客様の安全、そして、より良い鑑賞環境を保守するために、皆様のお力添えが必要です。皆様のお力添えが、美術館の発展の一助となります。ご協力をお願いいたします。

TEL0176-62-5858

わたしの おすすすめ 美術館

ポーラ美術館訪問記

七戸町 奈良松枝



ポーラ美術館前にて

行ってきました。ポーラ美術館！
十二月初旬、思い立って夫と二人で車
の利用を止めて新幹線を乗り継いで行
ってきました。東京の新宿から小田急
ロマンスカーを利用しての行き方もあり
ますが、JRの大人の休日倶楽部の切
符利用を考え、東京↓小田原↓箱根
↓湯本↓強羅まで電車、強羅からバス

でポーラ美術館へと向かいました。冬の
旅で寒さ厳しく冷たい風が頬をなでる
そんな日でしたが、空気が澄んで空は
青く東北新幹線の窓から六合目辺り
まで雪を抱いた富士山がくつきり見え
ました。箱根登山電車では親切な若
者に席を譲られ、強羅からバスで十五
分位揺られて、一段と緑多い木々に囲
まれた美術館に着きました。道程は長
く少々時間が掛かりましたが、箱根の
豊かな自然との調和と共生をコンセプ
トに設計されましたと言うだけあって
本当にその通りでした。ガラスを通し
て自然と一体となっている様は美術館
の周辺にあるブナ、ヒメシヤラが常緑
樹に葉を落とした木肌を映して冬な
らではの光景で素敵でした。春の桜や
紫陽花、夏、秋、冬と、四季折々の
季節も楽しめそうです。今回の美術館
のテーマは「挿絵展」でしたが十九世紀
印象派を中心とした西洋絵画、日本
の洋画、日本画、東洋陶磁、ガラス工
芸、化粧道具等があり展示作品を定
期的に替えるということ、内容を確か
めてから訪ねるといいですね。我が家
に飾ってあるルノアールの「レースの帽
子の少女」の原画と出会うことができ
、嬉しくなりました。最後にどうし
てもお伝えしたいのは、女性の好きな
レストラン、喫茶です。外景と一帯と
なった空間で楽しむ食事とお茶とケー
キ、ソフトクリーム、もう堪らないで
す。心豊かになります。どうぞお出掛
け下さい。楽しい一時をお過ごし頂け
ると思います。



増改築前のホール

鷹山宇一記念美術館開館20周年記
念事業の一環として、館外の回廊部分
にホールを拡大して談話室的機能を
持たせ、さらに情報交換の場として応
接室を設置してから、早くも一年が
経過しました。増改築後に行われた
「鷹山宇一記念美術館20周年記念式

鷹山宇一記念美術館 ホール利用のお願い

ポーラ美術館へは

- 住所 250-0631
神奈川県足柄下郡箱根町
仙石原小塚山1285
- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日なし：年中無休
(展示替えのため臨時休館あり)
- 入館料：大人1,800円
シニア割引(65歳以上)1,600円
- TEL 0460-84-2111
- ホームページ
<http://www.polamuseum.or.jp>



現在のホール(第一展示室側から撮影)、応接室は写真右奥。

典」のセレモニーに参加しましたが、ホ
ールは広々として使いやすくなったと
思います。また、応接室は事前にお申
し出いただき、公務に支障がなければ
使用できるようなのでご利用下さい。
季節は春、うららかな春のひとつと
き、企画展、常設展を鑑賞された後、
友の会購入図書・小学館創業90周年
記念企画「日本美術全集」等の蔵書も
ご鑑賞頂ければ幸いです。(照井)

☆ 皆様の会報です。要望、美
術館訪問記、旅行記等をお寄せ下
さい。(字数：800字程度)
☆お便りをお待ちしています。

★会費につい
てのお知らせ
会費の納入
は随時受け付
けております
が、10月1日
以降に新規会
員となった方
は、翌々年の
3月31日まで
を1年度とい
たします。

～平成27年度第1回研修旅行のご案内～

「ゴッホとポッロタヴァンの画家たち展」

平成27年度友の会第1回研修旅行をご案内致します。

平成27年度 第1回研修旅行
 日時:平成27年6月14日(日)
 研修先:盛岡市 岩手県立美術館
 参加費:5,000円(入館料、昼食代、交通費含む)
 募集人員:先着35名(最少催行人員は20名)
 申込期限:平成27年5月31日(日)
 申込先・問い合わせ先:鷹山宇一記念美術館



◆ボン=タヴァンは、フランス、プルトーニュ地方にある小村。本展では約70点の作品を展示。ゴッホをはじめとする19世紀の画家たちにインスピレーションを与えた神秘的楽園、プルトーニュの美しい自然や風俗を描いた作品をお楽しみいただきます。

(岩手県立美術館HPより)

ポール・ゴッホ <二人のプルトーニュ女性のいる風景1888年>

研修行程(予定)

7:30 七戸南公民館
 7:40 鷹山宇一記念美術館～十和田市
 8:40 八戸高速IC経由
 10:30 岩手県立美術館
 13:00 昼食(ホテル東日本予定)
 14:00 フリータイム
 15:00 盛岡市出発
 18:00 七戸南公民館着

※詳細日程は、後日参加者にお送りします。

秋の国内研修旅行のご案内

平成27年秋の研修旅行「加賀会席と金沢21世紀美術館を訪ねて」(仮題)を検討中です。

次号の会報で募集予定です。ご期待下さい。

日時:平成27年10月下旬～11月中旬 2泊3日

研修先:石川県 金沢21世紀美術館ほか

募集人員:先着25名程度(最少催行人員は15名)

※詳細は、次号会報等でお知らせ致します。

友の会会員登録の更新と

新規会員登録入会お誘いのお願い

平成26年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。新年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に喜んで頂けるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、平成27年度の更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と郵便振替により随時行っておりますので、会員各位の特段のご協力をお願い致します。

○友の会の事業内容

①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)

②海外美術館研修旅行

③美術館作品購入基金への協力

④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力

⑤会報の発行

⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

①(個人) 年度会費 3千円

②(個人) 年会費 3千円、会員証提示により入館料2割引き

③ミニシアターグッズ1割引

④研究会、講演会への招待、優待

⑤他美術館等の視察研修への優待参加

⑥会報の配布

○特別会員

①(個人・法人) 年度会費 1万円

②(個人・法人) 年会費 1万円、会員証提示により個人・法人会員と

③(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

④(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

⑤(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

①(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

②(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

③(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

④(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

⑤(個人・法人) 年会費 2万円、新規加入の方に画集1冊贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★20周年記念会報 合本発行中

友の会では、第38号から77号までを一冊に合本、有料頒布してあります。平成17年からの10年間を辿る資料として是非ご購入をお願い致します。

・合本一冊 一、〇〇〇円

・送料一冊 二〇〇円

・申込先 鷹山宇一記念美術館

・申込先 鷹山宇一記念美術館

編集後記

★会報第78号をお届け致します。

平成27年1月発行の「友の会・会報合本II」をもって、鷹山宇一記念美術館友の会20周年記念事業は、無事に完了致しました。

ご協力いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。有り難う御座いました。(照井)